

第3の危機: 外来種など人間により持ち込まれたもの

外来種は、地域固有の生態系を脅かしています。

外来種による生態系の攪乱も問題です。外来種には、もともと日本に生息していないものと国内の他の地域から持ち込まれたものがあります。外来種は、在来種を食べたり生息・生育場所やエサを奪ったり、交雑によって地域個体群に遺伝的な攪乱をもたらすなど、地域固有の生態系を脅かしています。そのため外来種の放しをしないことが重要です。また、登山靴の裏に植物の種が付着することなどにより、意図せずに外来種が移入する場合もあり、その対応も課題となっています。

野尻湖のコクチバス



上信越高原国立公園の野尻湖には、外来種のコクチバス(北米原産)が推定1万匹も生息しているといわれています。

ハルザキヤマガラシ



上信越高原国立公園内の車道沿いなどには、ハルザキヤマガラシ(ヨーロッパ原産)が見られ、その拡大が懸念されています。

上信越高原国立公園



百名山でも有名な浅間山は今なお活発な火山活動をしています。

指定日:1949年(昭和24年)9月

面積:188,046ha

関係県:群馬県、長野県、新潟県

上信越高原国立公園は、浅間山や白根山のような活火山、志賀高原の高層湿原など豊かな自然的要素に加え、神社を有する戸隠高原など歴史的要素のほか、スキー場、キャンプ場、温泉など野外レクリエーション的要素を有しています。

